

お客様各位

2022年4月
株式会社東陽テクニカ

「EP9/VE」型、「ES10/VE」型、他 EMI 計測ソフトウェア 不具合のお詫びとお知らせ

平素は、弊社 EMC 製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。

このたび、弊社製 EMI 計測ソフトウェアにおきまして、1kHz 以下の周波数で計測器へのファクター転送機能をご使用の場合に、以下の不具合が発生することが判明いたしました。

つきましては、対象となるお客様には詳細なご案内をいたしますので、下記窓口までご連絡いただけますようお願いいたします。

お客様には、ご迷惑をおかけ致しますことを深くお詫び申し上げます。

今後はより一層の品質向上に努めてまいります。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 記 -

【 対象となるお客様 】

下記“対象ソフトウェア”と同時に下記“対象機器”をお使いになり、かつソフトウェアのファクター転送機能を使って 1kHz 以下の周波数を測定しているお客様

【 対象ソフトウェア 】

現行製品

シリーズ	型番
「ES10」シリーズ	「ES10/VE」, 「ES10/LE」, 「ES10/CE」, 「ES10/RE」
「EP5」シリーズ	「EP5/ME」(販売終了製品)

サポート終了製品

シリーズ	型番
「EP9」シリーズ	「EP9/VE」, 「EP9/CE」
「EP7」シリーズ	「EP7/CE」, 「EP7/RE」
「EP5」シリーズ	「EP5/CE」, 「EP5/RE」

【 対象ハードウェア 】

メーカー	型番
Rohde & Schwarz	「ESAI」, 「ESIB」, 「ESU」, 「ESR」, 「ESRP」, 「ESW」, 「FSA」, 「FSB」, 「FSEM」, 「FSV」

【 発生する条件 】

下記条件を全て満たす場合に発生します。

- 上記対象ハードウェアを使用
- 上記ソフトウェア上で、対象ハードウェアへのファクター転送機能(※)を有効にしている
- 1kHz 以下の周波数を測定する

<※ファクター転送機能について>

通常はソフトウェアにて計算するトランスデューサー等のファクターを計測器に設定することで、計測器の計算結果をそのまま利用する機能です。

【 発生する症状 】

ソフトウェアのファクター転送機能において対象機器のトランスデューサーファクターテーブルを設定する際、ソフトウェアが周波数を kHz 単位に丸めて設定してしまうため、1kHz 以下の周波数において誤ったトランスデューサーファクターが設定されます。

【 不具合の影響 】

誤ったファクターが設定されることで、測定結果のレベルに誤りが生じます。正しいレベルとの差異および、レベルが増加または減少になるかは、ソフトウェア上で設定したファクターの値、および対象機器により異なります。

【 不具合の回避方法 】

1kHz 以下の測定をする際には、ファクター転送機能を使用せずに測定してください。

【 不具合修正版・アップグレードのご案内 】

ご使用の製品に応じて、不具合修正版のダウンロード方法または「ES10」シリーズへの有償アップグレードに関するご案内をいたします。弊社営業担当、もしくは以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

シリーズ	不具合修正版
「ES10」シリーズ	Ver. 2022.01.010 以降
「EP5/ME」	Ver. 6.00.110
「EP9」シリーズ	Ver. 4.04.090

【 本件に関するお問い合わせ先 】

株式会社東陽テクニカ EMC 特機技術部 EMC サポートグループ

TEL : 03-3245-1154

メール : Emc-support@toyo.co.jp

受付時間 : 平日 9:30~12:00、13:00~17:30